



今年、最も劇的なサヨナラ打を放った選手が決定！
2018 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞
年間大賞 受賞者

パ・リーグ 森友哉選手（埼玉西武ライオンズ）
セ・リーグ 下水流昂選手（広島東洋カープ）

スカパー! は11月30日（金）に「2018 スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」の表彰式を開催しました。表彰式には受賞選手である、埼玉西武ライオンズ・森友哉選手（パ・リーグ）と広島東洋カープ・下水流昂選手（セ・リーグ）が登壇しました。表彰式後には受賞両選手に加え、今年の「スカパー! プロ野球セット」の顔として、CMにもご出演を頂いた落合博満氏をゲストにお迎えしてトークショーも行いました。トークショーの最後には、BSスカパー! で放送中のアニメ『グラゼン2』で主人公・凡田夏之介の声優を務める、落合福嗣氏もサプライズ登場し花束贈呈を行いました。なお、表彰式とトークショーにはスカパー! プロ野球PRアンバサダーを務める倉持明日香さんも参加しました。

表彰式では受賞選手の発表に始まり、受賞プレー紹介をした後、トロフィーと賞金パネルが贈呈されました。森選手（埼玉西武ライオンズ）は「（8点差を）逆転できたことでチームとして勢いに乗れました」と、下水流選手（広島東洋カープ）は「広島に勝利を届けたいという思いが乗ったホームランだったと思います」と挨拶しました。

表彰式後、会場では受賞両選手に加え、ゲストに落合博満氏をお迎えしたトークショーを行いました。受賞プレーをVTRで振り返る場面や今シーズンの振り返りなどのトークを展開。森選手は受賞プレーとなった「プロ野球史上初、8、9回で8点差を逆転したサヨナラ勝利の一打」を振り返ったり、リーグ優勝に輝いた今シーズンの活躍などの感想を述べました。下水流選手は受賞プレーとなった「西日本豪雨の影響により16日ぶりとなったホーム試合でのサヨナラ打」の感想を振り返ったり、今シーズンで2回月間サヨナラ賞を受賞した気持ちを語りました。落合博満氏はCMでもお話いただいた今シーズンの予想とその結果の振り返りや、受賞両選手のプレーに対する感想などを述べ、来季も受賞両選手の活躍にエールを送りました。



◎森友哉選手（埼玉西武ライオンズ） コメント

あのシーンは、個人的にも印象に残っている一打です。逆転できたことでチームとして勢いに乗り、リーグ優勝にもつながったと思います。来シーズンはまず、キャッチャーとして100試合以上はマスクをかぶり、打つ方はホームランを40本以上打ちたいです。今シーズンはリーグ優勝できましたが、日本一という目標には届かなかったので、来シーズンこそは日本一を目指して熱い試合ができればいいなと思います。そして今季以上に良いプレイをして、またこのような賞を受賞できるような勝負強い選手になっていきたいです。

◎下水流昂選手（広島東洋カープ） コメント

あの試合は豪雨災害により16日ぶりのホームゲームで、ファンの皆様、県民の皆様になんとしても勝利を届けたいゲームでした。本当に苦しい試合でしたが広島に勝利を届けたいという思いが乗ったホームランだったと思います。来シーズンはチームとしてリーグ四連覇、そして日本一を目指し、選手一丸となって最後まで諦めることなく勝利に向かって全身全霊で頑張りたいです。個人的にはプロ野球選手である以上、レギュラーを目指してやっていますのでなんとか一試合でも多く試合に出られるように頑張っていきたいです。応援よろしくをお願いします。

◎ゲスト・落合博満氏 コメント

森選手はあれだけバットを振れるのはすごいと思います。来シーズンは40本以上のホームランを期待したいです。下水流選手にはレギュラーポジションが手の届く位置にあると思うので、来季は是非レギュラーを獲得していただきたいです。来シーズンは全12球団に良い試合を見せてもらい、どのチームにも優勝して欲しい思いはありますが優勝できるのは2球団しかないので、今年実現できなかった西武と広島の日本シリーズは来年こそは観たいですね。

■受賞プレー概要

森友哉選手（埼玉西武ライオンズ） ～8、9回の2イニングで8点差逆転は史上初～

森選手は、4月18日（水）メットライフドームで行われた対北海道日本ハムファイターズ5回戦、7対8で迎えた9回裏、無死満塁の場面で右中間へ逆転サヨナラ二塁打を放ちました。この日の試合は7回を終えて北海道日本ハムが5対0とリード。北海道日本ハムは8回表にも3点を追加しリードを8点に広げます。しかし8回裏、埼玉西武ライオンズは先頭からの連打を足掛かりに、二者連続押し出し四球、さらに3安打を集中させ一挙7得点をあげ、7対8と1点差に追いつきます。9回裏は、源田選手、浅村選手の連打と山川選手の四球で満塁のチャンスを作ると、この場面で打席に立った森選手は、1ボールからの2球目を右中間へはじき返し二者が生還、埼玉西武が8点差を逆転する劇的なサヨナラ勝利を飾りました。8点差を8、9回の2イニングで逆転したのはプロ野球史上初の快挙。森選手は7月、8月にもサヨナラ打を放ち、チームの10年ぶり17度目（前身の西鉄時代を含めると22度目）のリーグ優勝に大きく貢献しました。

下水流昂選手（広島東洋カープ） ～セ・リーグ唯一の逆転サヨナラ本塁打～

下水流選手は、7月20日（金）マツダスタジアムで行われた対読売14回戦、10回裏8対9で迎えた場面で右翼席へ逆転サヨナラ2点本塁打を放ちました。この試合は広島東洋が序盤に7点をリードする展開。しかし、4回表と5回表に3点本塁打を浴び、リードは瞬間に1点に。6回裏に追加点を挙げ2点差とするが、7回表に2点適時打を浴び、ついに8対8の同点に追いつかれ試合は延長戦に突入します。7点差から追いつき勢に乗る読売は延長10回表、4番岡本選手の本塁打で1点勝ち越し。この試合初めて追う展開となった広島東洋はその裏、二死一塁から途中出場の下水流選手が打席へ。2球目を叩くと打球は右翼席に飛び込む逆転サヨナラ2点本塁打となりました。この本塁打は今シーズンのセ・リーグでは唯一の逆転サヨナラ本塁打となります。西日本豪雨の影響により16日ぶりとなったホーム試合で2位の読売相手にチームのリーグ三連覇を後押しする劇的なサヨナラ勝利をもたらすとともに、被災した市民を勇気づける貴重な一打となりました。

■スカパー! ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞

本賞は、2009年の制定以来今年で10周年となり、最も劇的なフィナーレである「サヨナラ打」にスポットを当てた賞として、「最後の一球まで何が起こるか分からない」というプロ野球の魅力を、全国のプロ野球ファンの皆様にお届けしてきました。本賞は、2006年シーズンからプロ野球全12球団公式戦全試合を放送し、ファンのみなさまの胸が熱くなるゲームを最後までお届けしているスカパー! ならではの賞であり、その年のレギュラーシーズンの全サヨナラ試合の中で最も劇的なサヨナラ打を放った選手に対して贈られるものです。シーズン終了後、セ・パ両リーグから各1名ずつ選出し、コミッショナーが認定するもので、受賞選手にはトロフィーと賞金200万円が贈られます。また同様の趣旨のもと、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打を放った選手を表彰する、月間「スカパー! サヨナラ賞」を制定しています。今シーズンのペナントレースでは、パ・リーグ27試合、セ・リーグ33試合、合計で60試合ものサヨナラゲームが記録されました。

<<年間大賞 歴代受賞選手>>

年度	セントラル・リーグ	パシフィックリーグ
2009	亀井 義行(読売ジャイアンツ)	井口 資仁(千葉ロッテマリーンズ)
2010	天谷 宗一郎(広島東洋カープ)	小久保 裕紀(福岡ソフトバンクホークス)
2011	長野 久義(読売ジャイアンツ)	松田 宣浩(福岡ソフトバンクホークス)
2012	和田 一浩(中日ドラゴンズ)	中田 翔(北海道日本ハムファイターズ)
2013	長野 久義(読売ジャイアンツ)	浅村 栄斗(埼玉西武ライオンズ)
2014	福留 孝介(阪神タイガース)	松田 宣浩(福岡ソフトバンクホークス)
2015	雄平(東京ヤクルトスワローズ)	柳田 悠岐(福岡ソフトバンクホークス)
2016	鈴木 誠也(広島東洋カープ)	吉村 裕基(福岡ソフトバンクホークス)
2017	宮崎 敏郎選手(横浜 DeNA ベイスターズ)	栗山 巧選手(埼玉西武ライオンズ)

■抽選で選ばれたスカパー! 会員 80 名も会場で祝福

今年の表彰式は、昨年に引き続きスカパー! 会員の中から抽選で80名様をご招待しました。プレゼント抽選会や選手との記念撮影会も実施。プレゼント抽選会では、両受賞選手のサイン入りグッズが贈呈されました。